

娘大系記操果

二編
下

^13
4449
6



A13
9449
6

盛衰
栄枯

娘太平記操早引第二編卷之下



江戸

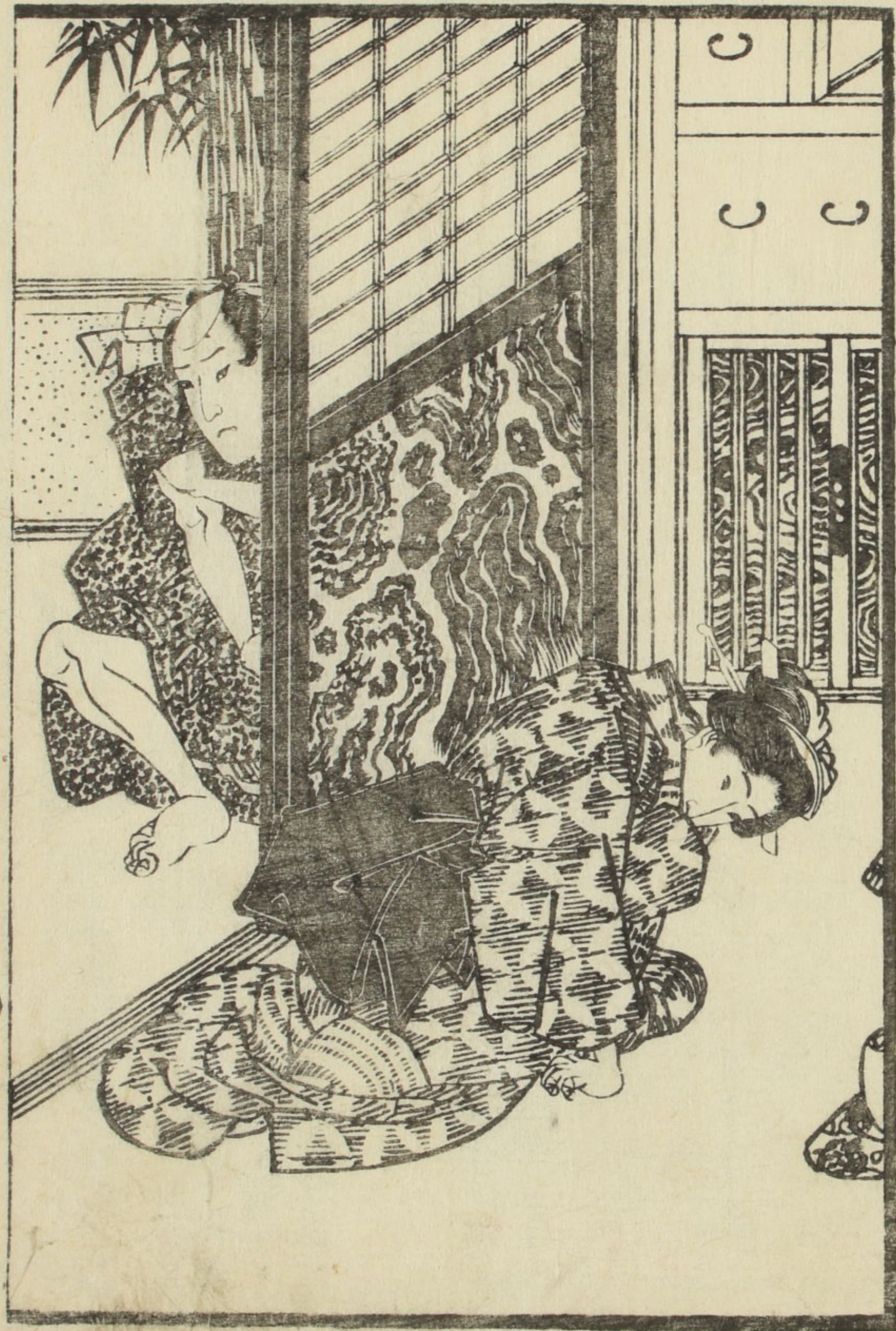
曲山人
松亭金水 合作

第九回

あゝ坂の山ついでの昔さきにありふること。君が性あま直ちかみありくも。是こゝに
 もかき何なに一ひとつ。不足たりのわぬぬ八百やねん教しよの妻つまのお子こ代しろの過あや世よの
 罪つみ障さやうりさみかかふ。穂あきるるぬ胸むねのうら。性あま直ちかみ入いりて。物ものど
 良あつと人ひとが身み持もち朝あさ夕ゆふる。水みづ気けにかる。親おやのまきも。涙なみだり
 移うつり過あやり。猶なほある。神かみはも。朽くる。断ちぎる。是こゝに。おのひなり

今貝の親父も怒る事由。宿の舟まで驚き来ハお救
 の酒のおこし。青ざめと子舎のらも。浦邊からさへ
 一森入やうくみ目がさあて。コウくお千代。何処へ往
 の下間がわると猪手送入とて。年何とせ先身に
 まく陸よりひきやをさへ。猪手。オオおあへく。ハハハハ
 まか目がさあて。おあへく。オオおあへく。ハハハハ
 ざいませ。何処うおを。おあへく。ハハハハ
 々々々々々々々々。世保忠とさあて。おあへく。ハハハハ

内証あけやあ。まの門でもそまへ。保忠とさあて。あ
 ちねり。おとまへ。猪手。おあへく。ハハハハ
 ぞい。妻側。勿論。困ひ物。おあへく。ハハハハ
 撐ひ。おとまへ。良人。おあへく。ハハハハ
 め。おとまへ。おあへく。ハハハハ
 笑。おとまへ。おあへく。ハハハハ
 せん。おとまへ。おあへく。ハハハハ
 何。おとまへ。おあへく。ハハハハ





所弘賣

色自然と接の花の如くあり二通り用ひるる如く極小せ疣の肌目
 も洞二重の如くはさききしきりともるのさきび。小きび。そをさき。腫物の跡
 色その如くも跡も消りてくろくも多。請合。朝起。髪を洗
 び玉粒香をまき。迎。ある。空。白粉を付。極。ある。気色。もろく。只自然
 素面の向くら。し。極。小。さ。は。方。の。字。み。及。羊。を。の。通。店。方。用
 のひても。目。小。ま。ま。と。美。く。の。製。法。は。右。馬。籠。の。湯。用。ひ。極。小。され。真。の
 美人とありある也。

為永春水精劑

妙藥 初みどる

このさきハ髪を洗ハば小
あふひよりともろくも
さうのう有 代三十六文

書物并繪入 讀本 問屋

江戸京橋弥左衛門町東側中程
文永堂 大嶋屋傳右衛門

和漢軍書繪入讀本 古本 品々 活山 取持仕 付並 格別 下並 にお働 差上 申 不 限 多少 沙求 下 下 備 希 上

京橋南中通り 弥左衛門町

文永堂 大嶋屋傳右衛門

